

製品名: CLC-KA ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08931**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	75kDa

抗原情報

遺伝子名	CLCNKA
別名	CLCNKA; Chloride channel protein ClC-Ka; Chloride channel Ka; ClC-K1
遺伝子 ID	1187.0
SwissProt ID	P51800
免疫原	抗血清はヒト CLCNKA 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 581-630

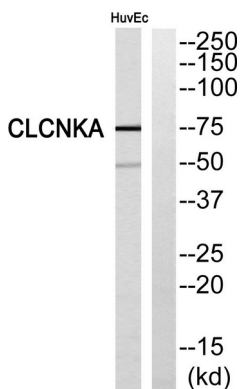
背景

この遺伝子は、電位依存性塩素イオンチャネルの CLC ファミリーに属する。コードされるタンパク質は 12 の膜貫通ドメインを持つと予測され、機能的なチャネルを形成するには barttin と呼ばれる β サブユニットを必要とする。腎臓における塩分再吸収と内耳にお

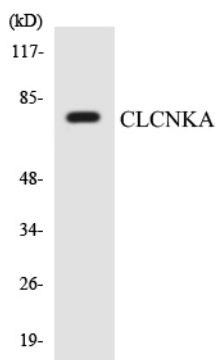
るカリウム循環に機能すると考えられている。この遺伝子は、この遺伝子の 10 kb 下流に位置する CLCNKB と非常に類似している。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：電位依存性塩素イオンチャンネル。塩素イオンチャンネルは、細胞容積の調節、膜電位の安定化、シグナル伝達、経上皮輸送など、様々な機能を有する。尿濃縮機構において重要な役割を果たす可能性がある。、類似性：クロライドチャンネル (TC 2.A.49) ファミリーに属する。、類似性：2つの CBS ドメインを含む。、サブユニット：BSND と相互作用する。ヘンレ細上行脚において BSND とヘテロ多量体を形成する。、組織特異性：主に腎臓で発現する。BSND を発現するすべてのネフロン分節は、CLCNK タンパク質も発現する。、

研究分野

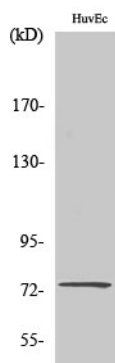
画像データ



CLCNKA 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには CLCNKA ペプチドでブロッキングされている。



CLCNKA 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CLCNKA ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

